

- ▶ 本資料は、令和4年度の施策・事業における個別の取組のうち、主な取組を抜粋して紹介したものです
- ▶ その他の主な取組は、年次報告書の7頁以降を御覧ください。また、全ての施策・事業は、同20頁以降を御覧ください

重点施策(1)都市の骨格を形成する交通機能の強化

連続立体交差事業の取組(JR南武線連続立体交差事業(矢向駅~武蔵小杉駅))

本事業は、令和4(2022)年度は概略設計を実施するとともに、都市計画や環境影響評価の手続きに着手しました。

また、工法変更や今後のスケジュールについて、関係地権者等に向けた説明会を2回、その他オープンハウス型の説明会を幸区・中原区で6回開催するとともに、都市計画素案説明会を2回、環境影響評価準備書説明会を4回開催しました。

重点施策(2)交通の安全・安心の強化

安全・安心で魅力と活力のある自転車を活用したまちづくりに向けた取組

令和4(2022)年3月に改定した「川崎市自転車活用推進計画」に基づき、4つの基本政策をもとに、計画的に取組を進めています。

主な内容として、「通行環境整備」では、安全で快適な自転車通行環境の整備を推進し、「駐輪対策」では、地域特性や利用者のニーズに応じた駐輪場の整備、「自転車の活用」では、シェアサイクルの一層の利用・普及促進に向け、公共施設等へのサイクルポートの拡充や自転車の利用促進に向けた広報活動、「ルール・マナー啓発」では、自転車利用者への交通安全教育の実施や通行環境整備箇所での広報・啓発活動など、取組を進めました。

重点施策(3)市民生活を支える公共交通の強化

コミュニティ交通等の導入検討・支援

令和4年3月に改定した「地域交通導入に関する手引き」に基づき、コミュニティ交通の導入に向けた地域協議会等への支援等の取組を推進しました。

令和4(2022)年度は、横浜国立大学と神奈川トヨタ自動車(株)と連携・協力し、宮前区平地区及び麻生区片平地区を対象にトライアル制度を活用した試験運行を実施し、導入に向けた取組を推進しました。また、多摩区枳形周辺地区は、行動特性調査及び取りまとめの支援を実施しました。



宮前区平地区試験運行の使用車両

身近な地域の公共交通における新技術の導入促進

社会経済の様々な領域で大きな変化をもたらしているICT(情報通信技術)などの技術革新は、交通分野においても様々な形で導入、検証が進められています。本市では、公共交通の促進や利用者の利便性向上を図るため、交通事業者等と連携し、ICTの効果的な活用に向けた検討に取り組んでいます。

令和4(2022)年度は、民間事業者と連携し、中原区と高津区の一部においてデマンド交通「チョイソコ」による実証実験を行いました。



チョイソコかわさき使用車両

JR武蔵小杉駅における混雑対策の取組

JR武蔵小杉駅の利用者が増加していることから、JR東日本による混雑緩和対策として、平成30(2018)年4月には新南改札への入場専用臨時改札とエスカレーターの設置及び南武線下りホームの一部拡幅工事が行われ、令和元(2019)年11月には安全性向上のため横須賀線ホームへのスレッドラインと転落防止注意喚起センサーを整備しました。令和4(2022)年3月には南武線のホームドアを供用開始しました。

また、更なる混雑緩和に向けた抜本的な対策を図るため、平成30(2018)年7月に横須賀線下りホーム新設(2面2線化)及び新規改札口設置を進めていくための基本的な事項について、JR東日本と覚書を締結し、令和4(2022)年12月に下りホームが供用開始し、令和5年度内の供用開始に向けて令和4(2022)年9月に新規改札口の工事に着手しました。



JR横須賀線下りホーム供用開始後の状況(令和4年12月)

重点施策(4)環境に配慮した交通の低炭素化

次世代自動車の普及促進

交通部門の脱炭素化を推進するために、株式会社サンオータスと連携し、市民や事業者の次世代自動車の利用機会創出等を目的とした、再エネ100%によるEVカーシェアリングの実証実験を、川崎区殿町のキングスカイフロントにおいて開始しました。

電気自動車(EV)を川崎市内の専用ステーションに配備し、専用ステーションであればどこでも返却できるシェアリングサービスを提供することで、利便性の高いカーボンニュートラルなまちづくりを目指します。

■ステーション概要

太陽光発電を備えた電動モビリティ充電ガレージ「E-Cube(イキューブ)」に、超小型EV「C・pod(シーポッド)」を配備します。

E-Cubeには蓄電機能があり、再エネ100%によるEVカーシェアリングの実現が可能となります。

■運用期間 令和5年2月15日から令和6年度末まで(予定)



EVカーシェア専用ステーション

重点施策(5)臨海部の交通機能の強化

新たな基幹的交通軸の整備に向けた取組

川崎臨海部への交通アクセスについては、川崎駅からのバス利用が多く、ピーク時におけるバス車内や駅前広場の混雑などが課題になっていることから、交通環境の改善や臨海部の発展を支える交通機能強化の実現に向けた取組を進めています。

この取組の一環として、令和5(2023)年3月から、川崎駅から水江町までの路線において、川崎鶴見臨港バス株式会社により、本市初となるハイブリッド連節バスを使用したBRT(バス高速輸送システム)の運行が開始されました。



ハイブリッド連節バス車両外観